

# 子どもの鼠径(脱腸)ヘルニア

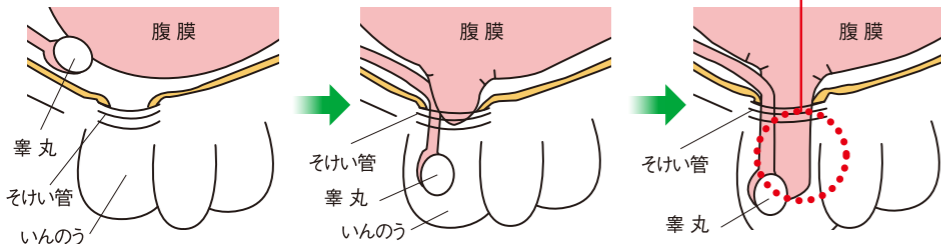
## ●子どもの鼠径ヘルニアとは

子どもの鼠径ヘルニアは、足の付け根より上の部分(鼠径部)から腸が飛び出し、見た目が膨れる症状が特徴です。先天性の要因で男の子の場合、胎児期にお腹の中にあった睾丸(こうがん)がいんのうに降りる際に、腹膜も一緒に引っ張られて袋ができてしまいます。

通常、この袋は自然に消失するのですが、鼠径ヘルニアになる子どもの場合は、袋が消失せずそこに腸が入り込み膨らんでしまいます。手で押さえたり、寝転んだりすると引っ込んでしまうので、放置しがちですがそのまま放っておくと、「かんとん」といって、腸が入り込んだまま、引っ込まなくなり腸が壊死に陥る危険な場合もあります。気になる点があれば早めに受診し治療を受けてください。

## ●子どもの鼠径ヘルニアの成因

通常は消失する! ▶ 消失しない場合、その袋に腸が入り込み膨らむ ▶ 子どもの鼠径ヘルニア



胎児期に、睾丸に引っ張られて袋ができる。



# ヘルニア

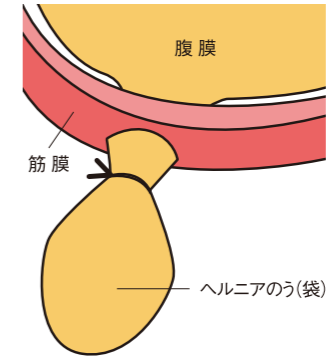
ヘルニアという言葉をよく耳にするかと思いますが、ヘルニアとは何か飛び出して通常の状態でないことを表します。今回は、本来ならお腹の中にあるはずの腸が飛び出す子どもの鼠径ヘルニアを紹介します。

## ●体に優しい腹腔鏡手術

手術以外に治療法はなく、子どもの鼠径ヘルニアの手術は、従来から行われている鼠径部手術と、最近増加している腹腔鏡手術の2つがあります。鼠径部手術では、鼠径部の皮膚を2cm程度切開し、袋に入った腸を元の位置に戻したあと、袋の根本を糸で縛って塞ぎ、腸が外に出てこないようにします。一方、腹腔鏡手術では、へその近くに5mm程度の穴を開けて、腹腔鏡と呼ばれるカメラと手術操作をする器具をお腹に入れてヘルニアの修復を行います。鼠径部手術と同じように、袋の根本を糸で縛って塞ぎますが、腹腔鏡手術の利点は、傷あとが小さく術後の痛みも少ないだけでなく、反対側のヘルニアの有無を同時に確認でき予防閉鎖ができる点です。

この体に優しい腹腔鏡手術は、実は1995年に本院で考案した治療法で、今では全国に広がり多くの患者さんが少ない負担で治療を受けることができるようになりました。本院は徳島県で唯一の日本小児外科学会認定施設であり、今までに1500例以上の腹腔鏡手術を行い、年間約100名の鼠径ヘルニアの患者さんを受け入れるなど小児医療に力を入れています。また、新生児から15歳までの子どもの特性を十分熟知した小児外科専門医が2名常勤していますので、安心して受診してください。

### ヘルニアのうを縛る



ご不明な点がございましたら、いつでも小児外科・小児内視鏡外科にお問い合わせください。



■説明は  
徳島大学病院  
小児外科・小児内視鏡外科長  
**石橋 広樹**(いしばし ひろき)  
■問い合わせ先  
Tel.088-633-7136(外来)